



20第 3240 号
平成20年10月21日

国土交通省 道路局長 様

中野市長職務代理者
中野市副市長 小林 貫男



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

貴職におかれましては、日頃から当市の道路事業に対しご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付で依頼のありました標記の意見・提案につきまして、当市は、別紙のとおりです。 よろしくお願ひ致します。

- ① 広域交流と連携を支え、防・震災対策に応じた幹線交通網の整備。
- ② 安全で快適な都市基盤道路の整備。
- ③ 渋滞解消のための道路整備。
- ④ 都市計画道路の整備。
- ⑤ 雪害対策に係る財政支援の拡充について。(除雪事業)
- ⑥ 道路管理に伴う道路台帳の統合。

○現状	○課題
① 広域交流と連携を支え、防・震災対策に応じた幹線交通網の整備。 高速交通網が整備され、交流の機会が飛躍的に広がっているなか、地域の産業、経済、観光等あらゆる分野での交流機会の拡大に対応する幹線道路網を整備する必要がある。	○ 北陸新幹線の早期開通の促進を図ると共に、開通に伴い鉄道利用の拡大を図るためのアクセス道路の整備。 ○ 上信越自動車道の4車線化に伴い、交通量の増加に対応する周辺道路の整備。 ○ 防・震災対策に応じた緊急輸送路としての国・県道等の幹線道路整備。 ○ バス交通の利便性・効率運用を図り、交通弱者の移動手段を確保する施策整備。
② 安全で快適な都市基盤道路の整備。 市道改良率41.2%、舗装率71.2%(H18年度末)であり、快適な市民生活の維持向上、地域の活性化、交通安全対策のため、幹線市道及び生活道路の整備を地域住民から多数求められている。	○ 身近な交通基盤の整備として、産業経済の発展に重要な役割を担う、幹線市道の整備。 ○ 市民生活に密着した生活道路は、日々の生活にとって重要な道路であり、通学路等の安全対策を加味した整備が必要。 ○ 緊急有事の際、緊急・救急車両が入れない様な狭隘道路の解消のための道路整備。 ○ 障害者や高齢者等すべての人が安心して行動できる歩行空間を確保するため、歩道の設置及び段差解消のためのフラット化。
③ 渋滞解消のための道路整備。 国道403号江部交差点では渋滞が慢性化している。市街地は私鉄軌道敷に三方向を囲まれ、平面交差の踏切では、通勤通学時間帯に渋滞が発生する。有料道路志賀中野トンネルを回避する車両が住宅地を走行し、事故の危険性や排気ガスによる環境悪化が懸念されている。	○ 江部交差点の渋滞解消は長年の課題であり、迂回路の整備が望まれる。 ○ 踏切での渋滞解消のため、立体交差化が望まれる。 ○ 有料道路の無料化が望まれる。
④ 都市計画道路の整備。 当市の都市計画道路は、計画延長38.95km、で整備率は約6割が完成し、都市の骨格的な道路ネットワークを形成しつつある。しかし、市街地以外の住宅地や用途地域内において、2車線確保が遅れているエリアがあり、緊急車両の進入時、道路による火災の延焼遮断等に課題が残り、当初の目標に至っていない。	○ 震災時等の緊急輸送路や、火災の延焼遮断帯として、都市の防災性向上のため都市計画道路の早急な整備が必要。

⑤ 雪害対策に係る財政支援の拡充について。
(除雪事業)
除雪経費に係る財政支援は、通常、普通及び特別交付税として
地方財政全体に対して措置され、豪雪時の場合、臨時特例措置と
して一部地域の幹線道路の除雪費に対して国庫補助事業が適用
される。

⑥ 道路管理に伴う道路台帳の統合。

道路管理に伴う道路台帳を整備しているが、地図(紙)ベースの
台帳であり、その補正業務は多大な時間を要する。また、上下水
道・ガス等の占有物件、地権者等は所管毎に別々の台帳となり、情
報の共有化がなされていないため、その精度、利便性が活かされ
ていない

○課題

○ 冬期における住民の安心な生活のため、除排雪による交通確保に
努めています。少子高齢化に伴い住民の要望は細部にまで至っ
ています。地方自治体は財政運営が厳しいため、交付税措置の更な
る拡充のみならず、恒常的な除排雪事業に係る補助制度の確立が
望まれる。

○ 道路管理に伴い、その形態、占有物件、地権者、農道、林道等の
台帳をデジタル化して統合し、精度、利便性を向上させる必要があ
る。

「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」を都市像とし、まちづくりにおいては、市民一人ひとりが主役であることを自覚するとともに、お互いが連携し、地域が一体となって豊かな生活を実感できるまちづくりを進めていきます。

「緑豊かなふるさと」とは、唱歌「故郷（ふるさと）」に代表される恵まれた自然環境と景観を大切にし、自然との共生を根幹として充実した人生を送るという意味が込められています。

「文化が香る」とは、国文学者「高野辰之」、作曲家「中山晋平」、「久石 譲」など多くの文化人を輩出し、音楽や美術など文化芸術を理解し高めていく市民性とともに、土びなや各地に伝わる民俗芸能など伝統文化を受け継ぎ、郷土の誇りを大切にすることを育て、住民同士が交流していくという意味が込められています。また、築き上げてきた多種多様な生涯学習機会を生かし、文化・歴史・芸術の香り高いまちづくりを進めていきます。

「元気なまち」とは、この地に住み、働き、勤勉と努力で新しい価値を創造し、自助自立の未来を築きながら、元気に歌声を合わせるように協力しあうという意味が込められています。

まちづくりの主役である市民が行政との役割分担の中で、住民自治を確立し、自主的な活動や交流・連携により、様々な取り組みに挑戦し、地域の活性化と福祉の向上を実現していきます。また、農業・工業・商業・観光サービス業など特色ある産業が連携し新しい取組みのもと、全産業の活性化を実現していきます。

こうしたことから、「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」を本市が目指す都市像としています。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事例、期待する効果や評価等

長野県 中野市
様式 ④

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
○思いやりと地域の連帯で支える健康福祉のまちづくり	○人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくり ・やさしい歩道づくり事業	・ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者や高齢者等すべての人が安心して行動できる「やさしい地域づくり」をめざして、歩道の設置、段差の解消、視覚障害者用点字ブロックの整備を行い、バリアフリー化を推進する。	・H19より「まちづくり交付金事業」を導入し整備を促進している。
○安全・快適で機能的な都市基盤づくり	○広域交流と連携を支える幹線交通網の整備促進	・高速交通網が整備され、交流機会の拡大に対応する高速交通網の充実、国・県道の整備促進、こどもから高齢者まですべての人が自由に往来できる鉄道・バスの活用を図り、快適で暮らしやすい生活環境を整備し安心して済みよいまちづくりを進める。	・要路線の国・県道への昇格 ・バス交通の効率運用を図る
	○安全で快適な都市基盤整備の推進 ・幹線市道の整備 ・生活道路の整備	・地域の産業経済の発展に重要な役割を担う幹線市道の整備を図る。 ・集落内における狭隘な生活道路の拡幅改良、舗装等の整備を図る。	・「緊急地方道路整備事業」を導入し整備を推進している。